学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　岐阜盲学校　学校運営協議会　（第３回）

２　開催日時　令和７年１月２９日（水）　１３：３０～１５：３０

３　開催場所　岐阜盲学校　多目的室

４　参 加 者

会　　長	池谷　尚剛	岐阜大学教育学部　名誉教授
副 会 長	木原　奈央子	本校ＰＴＡ　会長
委　　員	平井　花画	岐阜県ユネスコ協会　会長
	神　　尚喜	視覚障害者生活情報センターぎふ　アソシア主任
	松本　　公	京町自治会連合会　会長
	岩田　友樹	当校同窓生　マッサージ・鍼・灸もむタロー
学 校 側	兒玉　哲也	校長
	立川　麻里子	教頭
	堤　　鉄博	小学部主事
	端場　政博	中学部主事
	宮地　裕久	高等部主事
	竹本　隆浩	教務主任

５　会議の概要（協議事項）

（１）学校評価アンケートの結果と考察の報告
　・学校評価アンケートについての分析、考察の報告

（２）各学部の取組等の紹介
　・学部ごとに今年度の取組をまとめ、プレゼンテーション

（３）打って出る岐阜盲学校実行計画
　・令和７年度の取組について説明

（１）学校評価アンケートの結果と考察の報告

意見１：評価Ｅの「わからない」については、深刻な状況ではなく、知らされる必要がない状態の項目もある。決して否定的な「わからない」ではないと予想される。
⇒評価Ｃ「あまりあてはまらない」、評価Ｄ「あてはまらない」については、真摯に受け止め、対策を実践したい。

（２）各学部の取組等の紹介

意見１：盲学校の教育活動は様々な活動を計画・実践している。盲学校では、児童生徒が減少しているため、集団活動を確保しにくいことから社会性が育たないという理由で地域の学校への進学を選択されることがある。しかし、視覚障がい支援を含めた教育活動において、これだけのサポートがあることをたくさんの人に知ってもらい、盲学校らしさを作っていくことを願う。

意見２：普通科の生徒が進路選択で就職を希望した際には、視覚障がい者ができる仕事の中から選ぶことが多いと予想されるが、「やりたい仕事」を選ぶことができるようにスキルを身に付ける必要がある。そのスキルを学ぶ場が学校でありたい。

意見３：授業の様子から特色のある、きめ細かい支援だと思われる。点字指導は必要な児童生徒に必要な時期に指導していく必要がある。盲学校の児童生徒が、地域の方と交流する機会が減少していると感じている。コロナ禍前に実施していたアソシア主催で当校を会場として実施していた「防災運動会」を再開していくことで、地域の方と交流ができる機会となるため、前向きに検討していきたい。

意見４：地域としては、盲学校周辺を清掃したり、盲学校のグランドで遊んだりすることはあるが直接交流する機会はなくなった。以前のように、防災運動会やオープンキャンパスなどの行事があると交流の場となるのではないか。

⇒教育活動のすべてをコロナ禍前に戻すというよりも、児童生徒が主体的に学ぶことができるように、活動を精選し必要な活動については再開したい。その反面、休日に行事を実施することは、職員の働き方から考えると難しい面もあるため今後検討していきたい。

（３）打って出る岐阜盲学校実行計画

校　長：行事の際には、当校を応援したい元気な卒業生の保護者や卒業生、地域の方々を募って、サポーターとしてお手伝いをいただき、マンパワーを結集したい。

意見１：ぜひ協力したいと思う。こういった活動があることで、学校とのかかわりができて安心感がうまれる。

意見２：地域住民は高齢化が進んできており、以前のように地域で行事を企画するのが難しい現状になってきている。

意見３：地域と学校のつながりは、とても大切と考えている。学校の児童生徒が地域の公園整備を担うなど役割があることで結束力は強くなる。高齢者の方でも参加しやすい取組を見つけていくことで、みんなが住みやすい社会になっていくと考える。

意見４：視覚障がいがあるということは、生きていく中ではマイナスのスタートになるが、健常者とともにスポーツを楽しんだり、同じ活動を一緒にしたりすることで自信につながると思われる。視覚に障がいがあっても、自信をもって社会生活を送ることができるような教育を願う。

意見５：盲学校を知っていただく取り組みとして、工夫できることは実践できていると感じている。児童生徒が減少していくことで行事や教育活動に制約が出てくることが予想される。教育活動のレベルを維持していくためにも、これまで以上の工夫が必須になる。例えば、他校と連携してオンラインでの授業交流を拡充していくことや、行事の際に地域と連携したり、卒業生の力を借りたりしながら行事を盛り上げるなど工夫が必要になる。そうすることで、全体のスケールを保つことができ、児童生徒の達成感がもてる。今後、様々な工夫をしながら取り組んでいくことが盲学校の継続につながると考える。

６　会議のまとめ

・第３回学校運営協議会は、学校評価アンケートの分析、考察と合わせて各学部の取組をプレゼンし、委員から意見を得る機会とした。

・校内で、「打って出る岐阜盲学校実行委員会」を立ち上げて今後の岐阜盲学校の在り方について検討し実践してきた。令和７年度の実行計画を提示したことで、活発な意見をいただき賛同していただくことができた。